

公衆電話

1.公衆電話の歴史

1890年の電話事業の創業から10年が経過した1900年9月、上野・新橋の両駅構内の2カ所に、また、西日本エリアにおいては同年11月梅田駅構内に「自働電話」と呼ばれる最初の「公衆電話」が設置されました。

公衆電話が世の中に浸透していききっかけになったのは、1951年12月に登場した商店等の店先に黒電話機を設置した「委託公衆電話」の登場でした。1953年にはよく目立つようにと赤く塗られた「赤電話」となり、この赤電話の登場以来、公衆電話の利用は急激に増加しました。さらに同時期にボックス用として青電話が登場、1972年には100円硬貨も使える黄電話が登場する等、ますますカラフルにかつ便利な公衆電話が現れてきました。

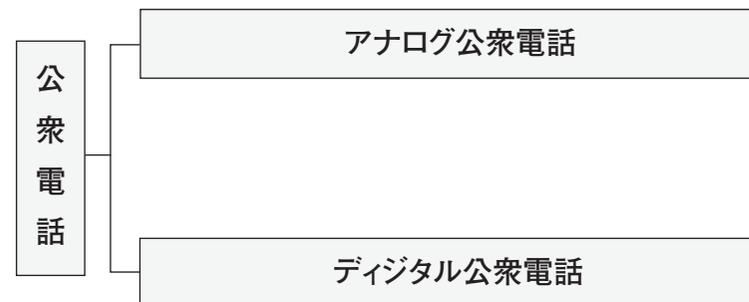
1982年には、キャッシュレス時代の先駆けとなったカード式公衆電話が登場し、1995年にはすべての公衆電話がカード式となり、1999年3月にはICカード公衆電話が登場しました。

このように、公衆電話は時代とともに進化を遂げ、戸外における通信手段として多くのお客様に親しまれ、利用されてきました。しかしながら、1994年を境に、携帯電話等の戸外における通信手段の多様化等の影響により、公衆電話の利用は年々大幅な減少を続けており、公衆電話サービスを維持するためには継続的なコスト削減が不可欠な状況となっています。

一方、依然として公衆電話は戸外における通信手段として重要な役割を担っています。このため、現在、公衆電話事業においては、お客様に信頼され、安心してご利用いただける公衆電話をめざして、社会生活上の安全及び戸外における最低限の通信手段確保に配慮しつつ、設置台数の適正化等による収支改善に取り組んでいるところです。

なお、ICカード公衆電話については、磁気カード公衆電話と比べて特に利用が少なく、カードの互換性がない2種類の公衆電話が混在することが、結果としてお客様にご不便をおかけしていることを踏まえ、お客様利便性への配慮、及び公衆電話サービスの維持に向けたコスト削減の観点から、2006年3月末をもってサービスを終了し、磁気カード公衆電話へ一本化しました。

2.公衆電話の種類



3.公衆電話の通話サービス

主な通話サービス	利用可否
ダイヤル通話	○
緊急通報(110,118,119)	○
番号案内(104)*	○
故障受付(113)	○
電報(115)	×
時報(117)	○
災害用伝言ダイヤル(171)	○
消費者ホットライン(188)	○
児童相談所全国共通ダイヤル(189)	○
IP電話(050)	○
フリーアクセス、フリーダイヤル等(0120,0800)	○
ナビダイヤル(0570)	○

*「104番号案内」は、2026年3月31日をもってサービス提供を終了いたします。